

11 炭坑資料

黒ダイヤと白ダイヤ

石炭は熱効率の良い燃料のため、暖房や調理のほか、蒸気船や機関車、工場の機械などを動かす燃料になり、製鉄にも役立ち鉄道も発達させました。また香春岳や関の山の石灰岩はセメントや石灰に加工されて道路や建物の建設などに利用されました。

この地域で掘り出され、福智町の金田駅から鉄道に載った黒ダイヤなどは、若松港から船で日本各地に運ばれて、明治時代からの日本の近代化で原動力になりました。

▼展示コーナーのようす



黒ダイヤ（石炭）と白ダイヤ（石灰岩）

給金辞令（雇用通知 坑内左官）
勤続表彰状
行商許可書

珪化木・石炭・豆炭・ボタ

川ひらた舟

江戸時代に、藩に納める年貢米や石炭のほかハゼの実、生蠎などを運び出し、帰りには海産物などを積んで戻ってくる重要な舟で、高瀬舟や五平太舟とも呼ばれました。

幅2～3m、深さ1mほどの幅広で底の浅い舟で、大きな舟では長さ10～16mもあり、米100俵、石炭6トン以上も積むことができました。鉄道を利用して機関車で運ぶようになったため、明治33年には使われなくなりました。

川ひらた舟▶

